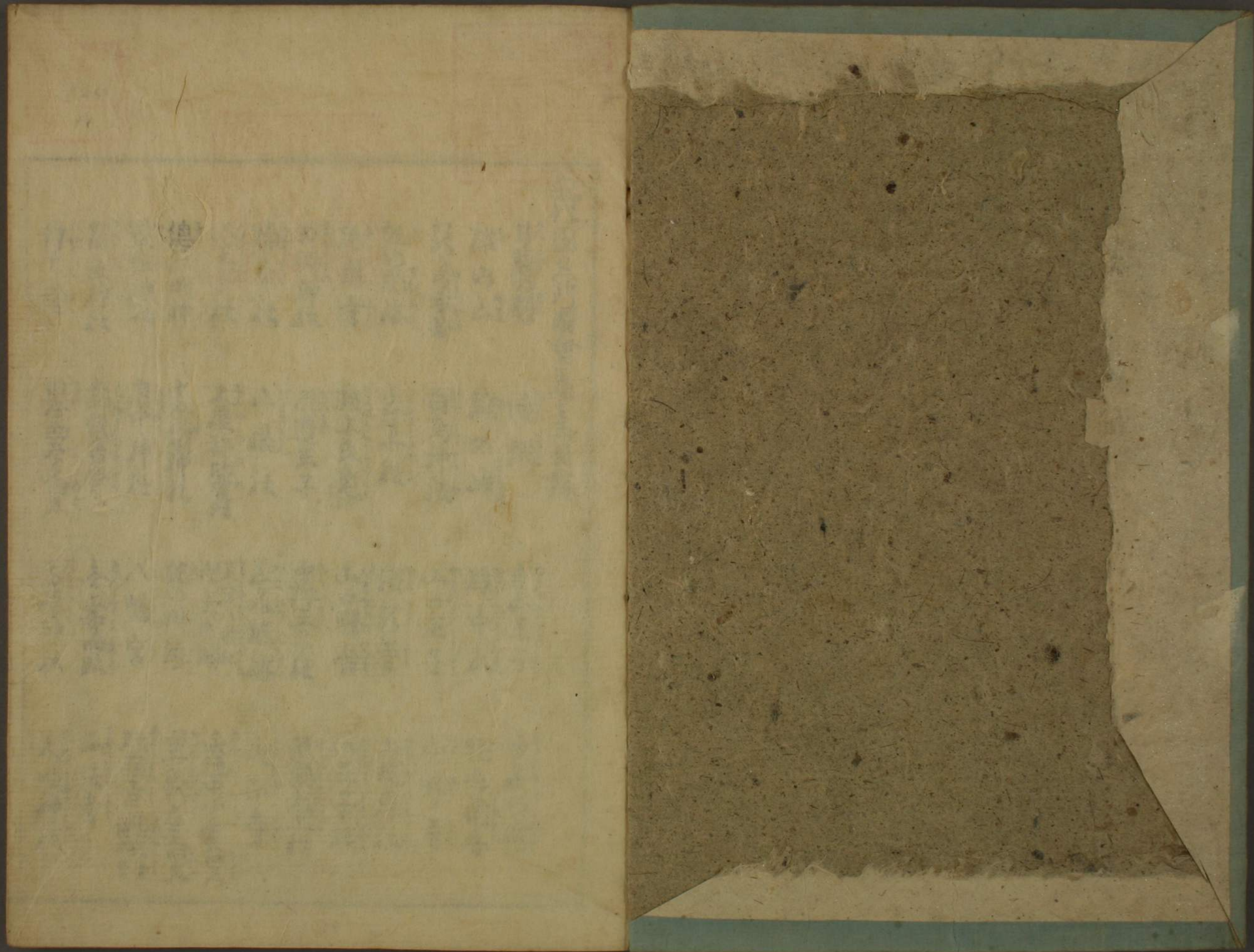


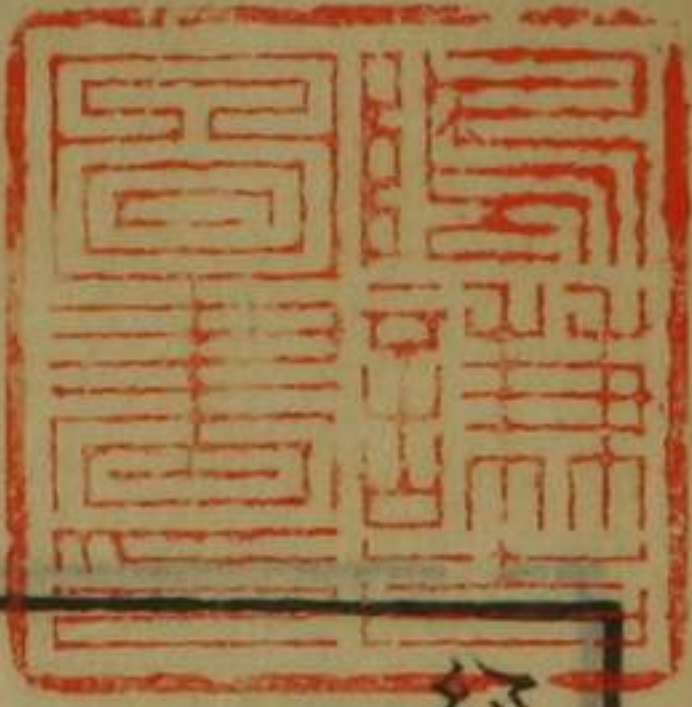
紀伊國名所圖會

三之卷上
名草郡

JL 4
325
4







紀伊國名所圖會卷之三目錄

耳廉の製	雄の公	紀の園跡	力侍神社	楠本神社	八王子社	總社明神	星頭神社	高良神社	浄土寺		
滝畑	雄の侍	白鳥神社	山王社	坂上氏宅	川邊王子	八幡社	大屋都比賣社	十五社明神	府中神社	齒觀音堂	田卷助左衛門
中山王子	雄中山	山口王子	法新寺	山口驛舎	中村王子社	山名城跡	佛手洗池	紀の川跡	八幡宮	冬上寺田路	寺橋神社
音世の修	紀乃園守	小野寺	大屋神社	八王子社	午頭天王社	永正寺	永徳中小左衛門	田丸執右左衛門	松嶺寺	正法寺	天心神社



甘藷作下

洛代明

さとうきび
うぶね
秋
日

丹生神社
本意寺
千壽の原
弁天岩
真川助を夫
伊也と神社
園部神社
代官隠山墓
伝吉社

總社明神
日明寺
日明寺七瀬
義法藏
役所古母公塔
櫻井
一樂寺
蘭の兵衛城
九頭神社

明光寺
昌浦井
谷の
藏王権現法
南殿山文日寺
圓明禪寺
九頭神社
赤財王社

浄永寺
直の茶店圖
兒の巻
八王子社
伊久雄社

砂糖

唐以前まじり支那にてもあることありた字も時ふありて
外國より献すべし其法をわらひて如くこれに製する
中光州菴を筆記に見えたり吾東方に昔はありてはさる
當府城の西なる漢雜貨店内とて不雜貨店菓物のはさる
製法は法ははらへてくんとて道國在田郡小豆村のころ
雜貨店新四とて田畑小甘蔗とてをくるとは法を製せし
くはらふ

國君より問ひあはせし所はたぬる今諸國を製するもの
雜貨店が法ははらへてくんとて道國在田郡小豆村のころ
の田廣大ありとてくべし

中山王子社 山莊新畑村在小豆

概しては新畑村五十餘町の王子と社とある
或は修験といふべし或は社といふべし
のこまあり是と王子と社とありは然る修験社とては王子と社とありての名なるべし○定

音

家御孫孫道河記を建仁元年十月廿日辨覽を述べて建仁元年十月廿日辨覽を述べて建仁元年十月廿日辨覽を述べて
概しては新畑村五十餘町の王子と社とある
或は修験といふべし或は社といふべし
のこまあり是と王子と社とありは然る修験社とては王子と社とありての名なるべし○定

其りてたりるお泉のころとありかたはは倉村背叢と
て頗る家の貴ありある早歳とては格濁とてくべし
測をあして水常に溢たり

清少納言枕草紙にたきい
者ありの流

雄

の心
月兼記仔細に出寫す甲寅自雄山道還日根行宮とて峯
中記と 嘯吹隣下 麻多輪 嘯吹隣



雲來雨去竟
茫然臨水登
山何處旋解
道九巖如黛
色今朝依舊
福湘川

縣周南

わさびの
湯
わさび
わさび
五雲



滝
中山王子
音無滝

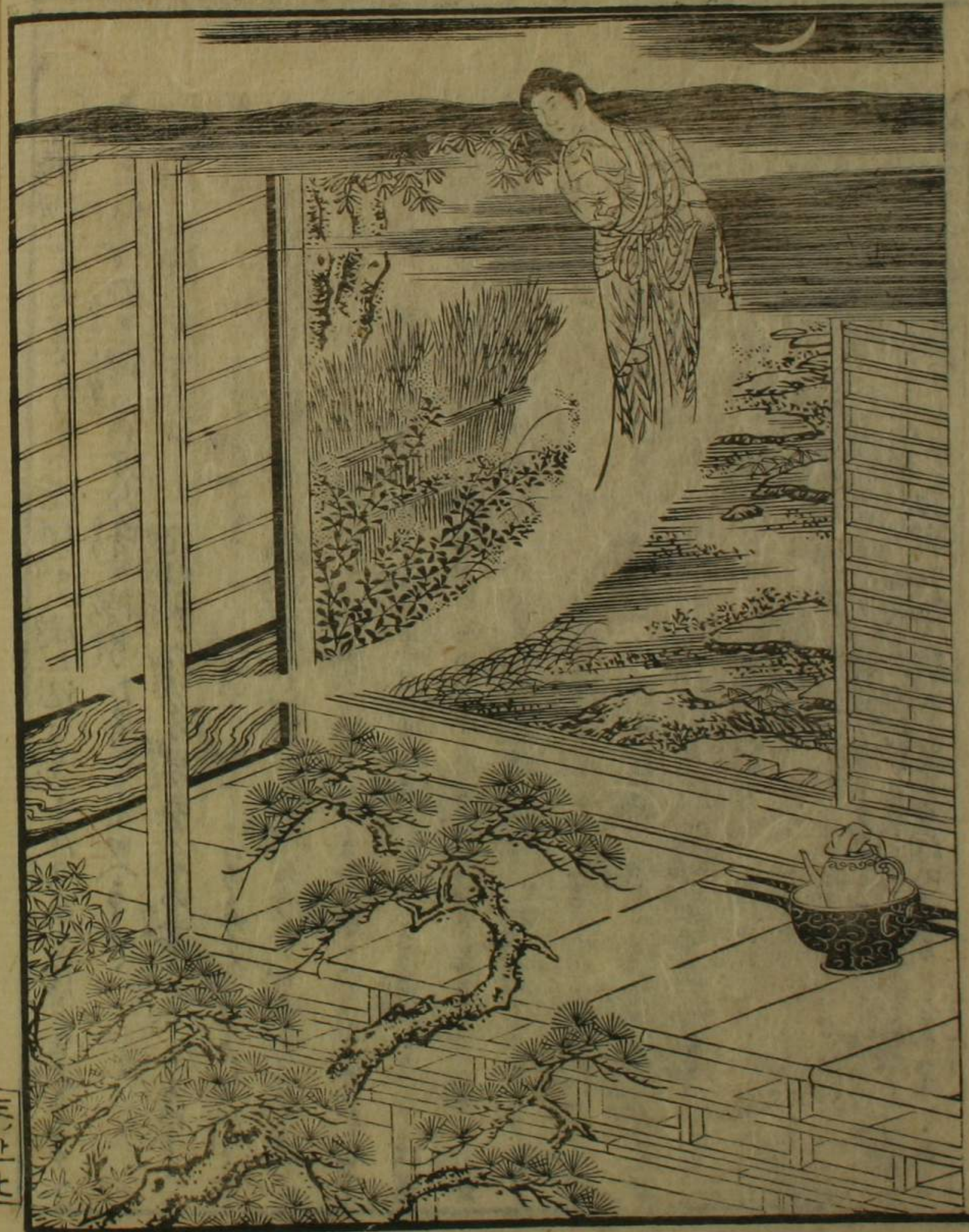
飯茶
福米
音無の
湯
わさび
わさび
わさび
わさび

中山王子

中山王子

中山王子





ちうん家にて由緒あるものありともいふ所のはたし川よりこれのついでに池のほとり
のせんあつちのまじひのさしだや

万葉

古昔子之跡履求追去者本乃園守仔細也

令村

夫本

村もつたのなりも何れもひじの川上の白鳥の雲

鴨長明

五吟

こつれあし東のちの白鳥と蛇の川ゆそりむね目らほ

俊頼

家集

あし吹紙の園守ささくつんゆさむるゆめやすくふん

藤原光俊

長秋派藻

引もつるこつせふふは終つては蛇の雲守らるるなれ

俊成

壬二

引もつるこつせふふは終つては蛇の雲守らるるなれ

俊成

其角の紙子しひあつたりのゆえ

其角

白鳥神社

陽谷村の白鳥神社半山の西にありたつたる白鳥といふ
引もつるこつせふふは終つては蛇の雲守らるるなれ

山口王子

其角の紙子しひあつたりのゆえ

白鳥小野寺

白鳥小野寺あり

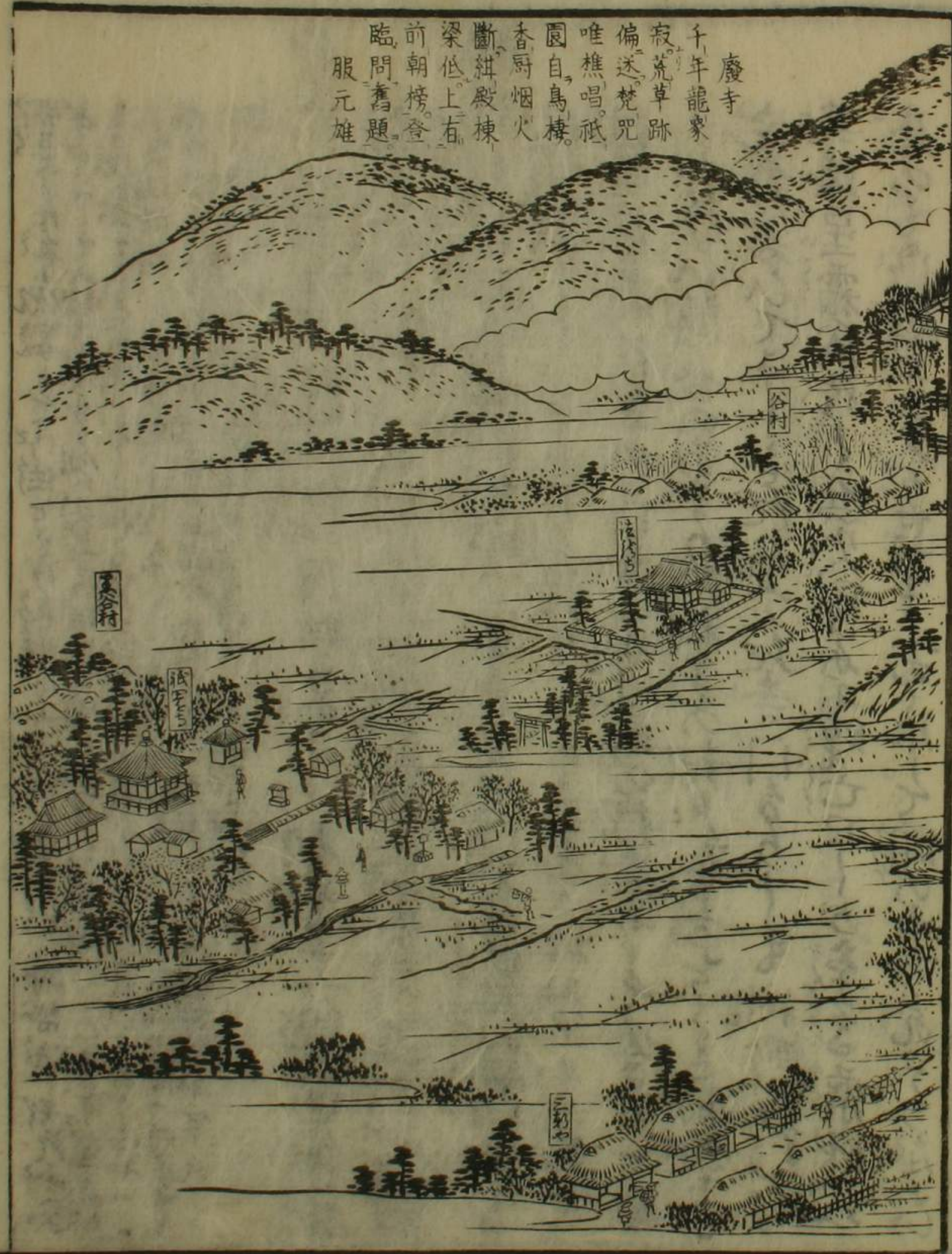
白鳥小野寺あり

○什寶小牟塔婆小町の本像

小町自筆の短冊

何れあり
三座ありて由内十ヶ村の産神たり
毎歳九月廿二日祭

廢寺
 千年龍象
 寂荒草跡
 偏送梵咒
 唯樵唱祇
 圓自鳥棲
 香厨烟火
 斷緝殿棟
 梁低上有
 前朝榜登
 臨問舊題
 服元雄



雄山
 白鳥社
 山呈子
 紀園寺
 小町寺
 山王社
 土屋社
 祇園寺





命云〇一村の産汁うすゆて毎歳九月十日を祀あり〇此社の比面ひまへは樹の枯株くせより自然しぜん中
一叢の社とせらるり其株くせ今存いまぞんて周まわり三十さんじゅうのありて寧なやみ穀千粒こくせんりゅうのた本もとなり人ひと
此社このやしろ天蜘蛛あまこぐもありて此樹このき本もとより和わ山やま八景はっけいとて人民じんみんをさるやませしる大田おほの年中なかつね中田なかつたの家に祀まつてを
を遷うつしてしめあひしに其そのくは木きと伐き倒たおせしる人ひと

八王子ノ社 永徳村 祭る神曆神八將軍 九月十九日を祀あり

八幡宮 同村小 往昔むかし興おこ教のう大師おほ根ねなる草創くさくわうの御寺のみでらの内うちに法はふ法はふと秘傳ひでんありしと則すなはち
山名使理やまなひを夫むす義ぎ理り墨跡すみせきに二十にじゅう八はち年ねん松まつ樹じゆを祀まつるは昔むかしの發はつ切きえとて其その社やしろの御守のみまもりなり

永徳中小を夫むす敷しき位い藤原ふじわら始はじめはの末葉すえ 本もと村むらの考かう家けありしと判はんき署しよの士しの一ひとなり

神波 宇田うた本もとより長ながあり神波かみなみは旧神ふるかみ戸となるは後のち名な抄しやう云い諸しよ御み名なの中なかに神かみ戸となりしと其その
御表みへ曰い便べん別べつ祭まつ十じゅう萬まん群ぐん神かみ仍なほ定さだ天あま社やしろ國くに社やしろ及および神かみ地ぢ神かみ戸と同おな垂た仁に帝みかど御み表へ曰い故ゆゑ弓ゆみ矢や及および横よこ刀やいば也なり

大屋都比賣神社 平田ひらた御み宇田うた 四時祭禮 三月十六日四月卯日六月朔日九月廿一日
祭る神三座 左方ひだり五十いそ御み命のみこと 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

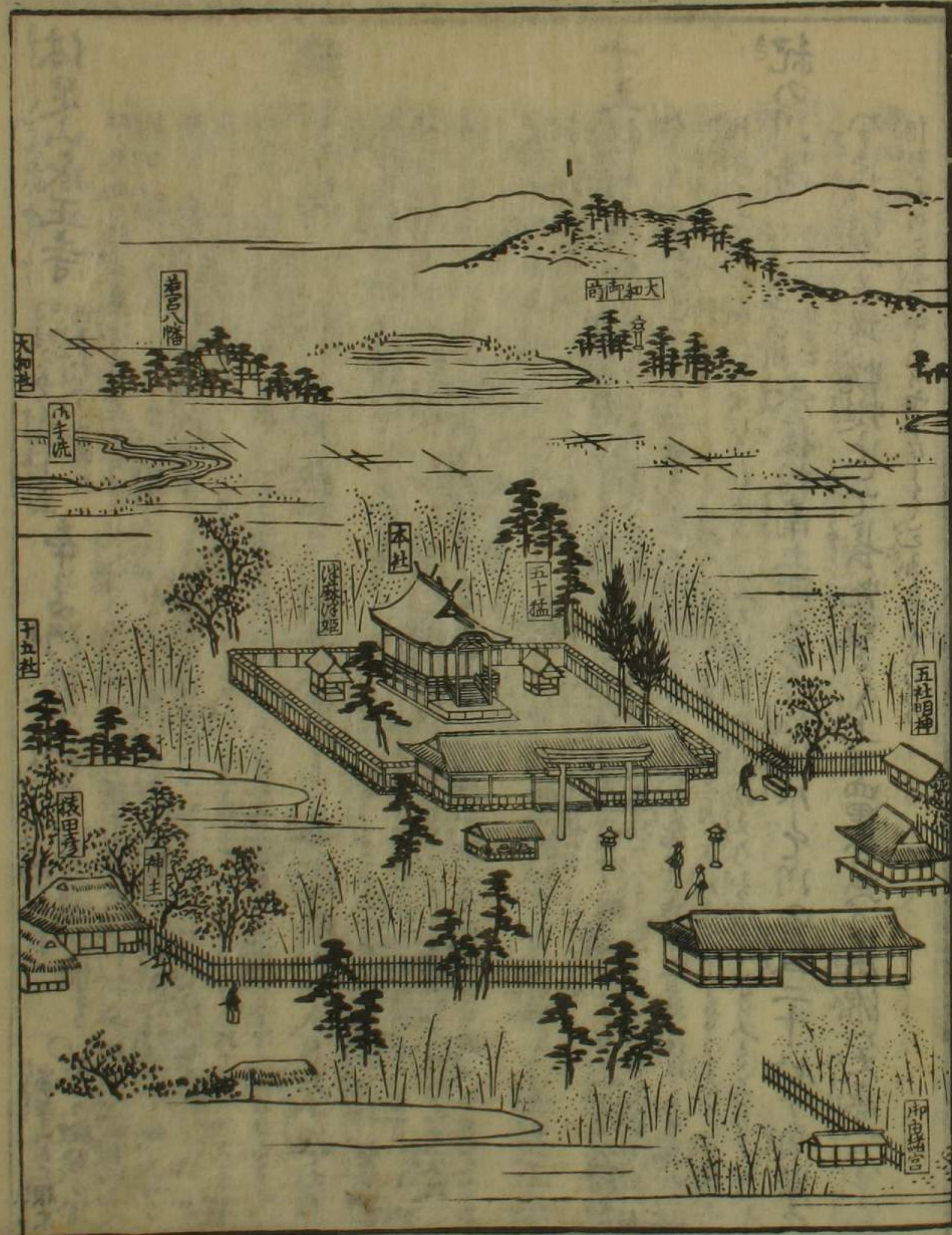
祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

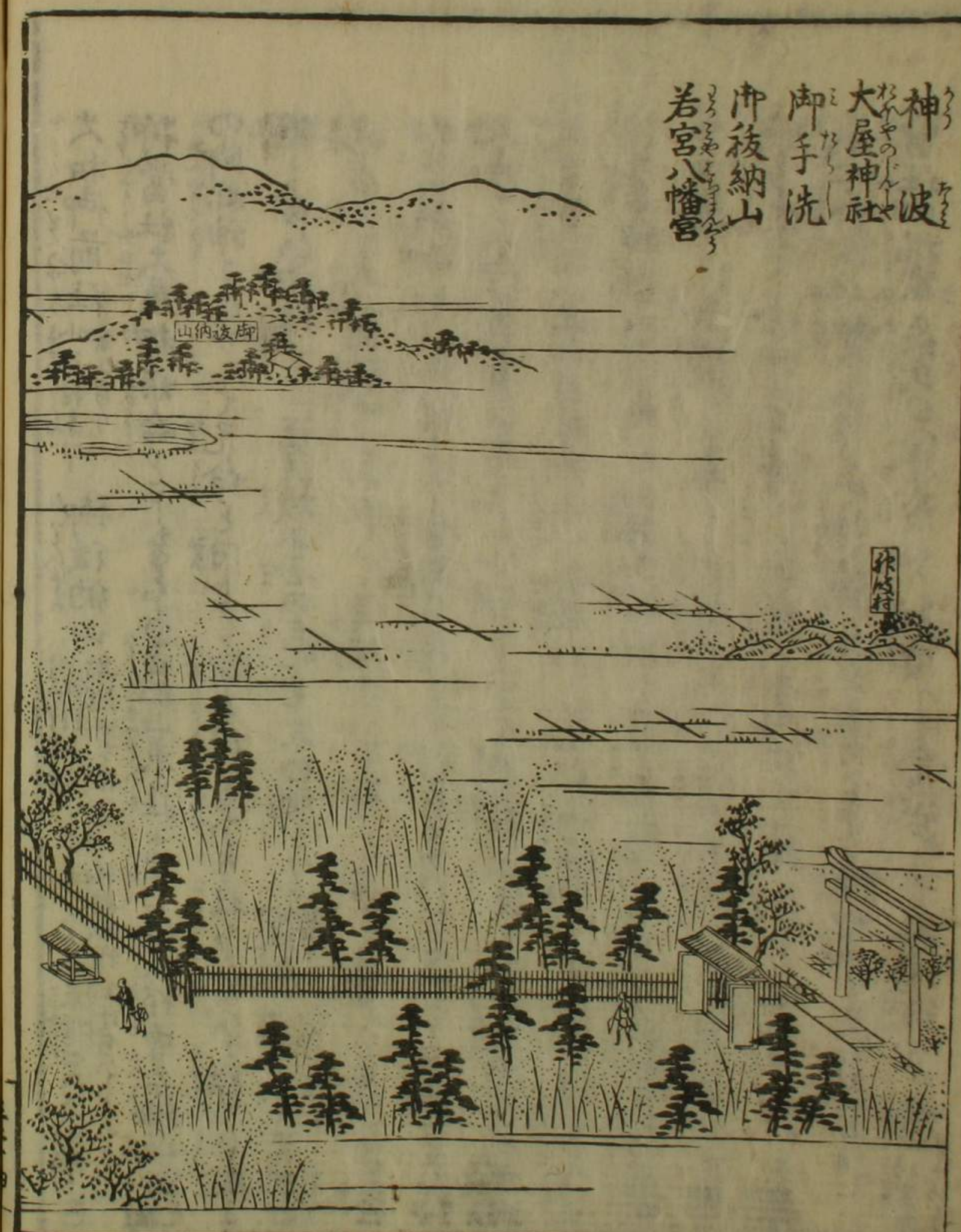
祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと

祭る神三座 中央あたひ大屋おほのや御み命のみこと 右方みぎ大屋おほのや御み命のみこと 左方ひだり五十いそ御み命のみこと



神波
 大屋神社
 御手洗
 沖後納山
 若宮八幡宮



体足山永正寺

西本願寺に属す

本寺の阿弥陀如来

法華經の依り

寺の御園の池

總社明神

母方村の

田子庄四ヶ村の産神にして毎歲九月十八日祭あり

おろろの神はあづまの

十五社明神社

村西村ありまの村素盞鳴尊

紀の川

水換村南五町あり紀伊の川

紀の川はあづまの川

の巴

大正の巴はあづまの川

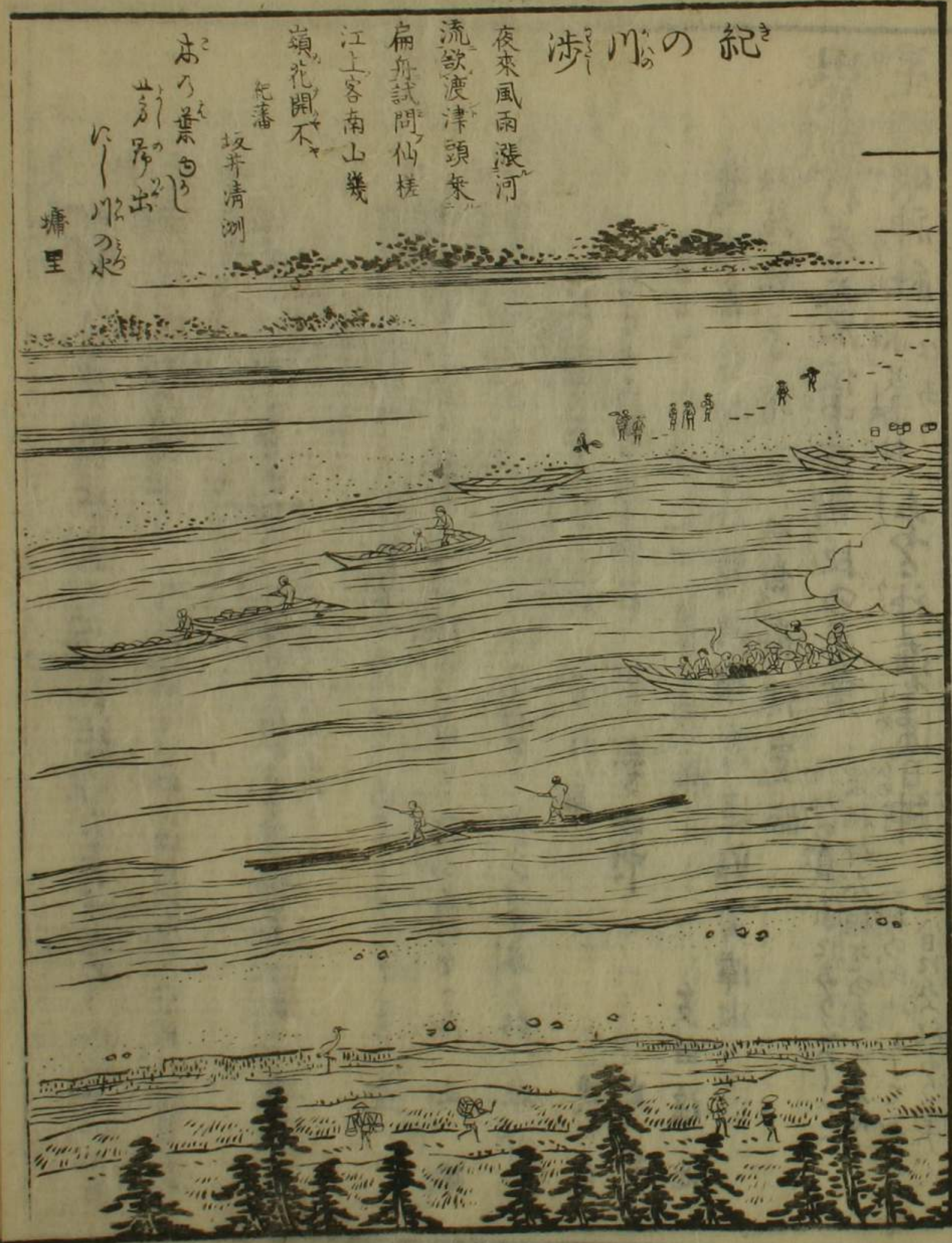
千手あると云ふは定まらず

産物

年魚。鯉。鯉。鯉。

平泰時

紀の川の渡し
 夜來風雨漲河
 流欲渡津頭來
 扁舟試問仙槎
 江上客南山幾
 嶺花開不
 紀藩
 坂井清洲
 おろ葉も
 山が岸出
 けし水つた
 瘡里



夫木

今朝よりいづれの水もあまらざるに紀の川上なるものん 僧正のま

朝より紀の川上なるものんをわかのさかひのさかひにゆたかりけり 法橋のま

雪の川にまじりて

氷上より一のまの紀の川の浪のまをまてあうなりう那 肉食まは

川にまじりて雨はまをまてあうなりう那

さうりそ雨はまをまてあうなりう那

まのふも紀の川をまの春のまをまてあうなりう那

たの川をまの春のまをまてあうなりう那

いづれの水もあまらざるに紀の川上なるものん 牡丹花

春日郊外渡紀川翠首嶺 多田沼池

鶯鳴雨歇柳春心跨馬破霞追野禽潭水

双龍のま躍長江喬嶽侶登臨

田井執約を夫教位中臣朝臣の末葉

星頭明神社 小豆島村 多神速日神

一神の氏にありて毎家九月十八日にありてあり

府中神社

府中神社 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

八幡宮

八幡宮 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

神宮寺

神宮寺 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

山松壇寺

山松壇寺 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

本意輪觀世音菩薩

本意輪觀世音菩薩 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

八月十六日

八月十六日 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

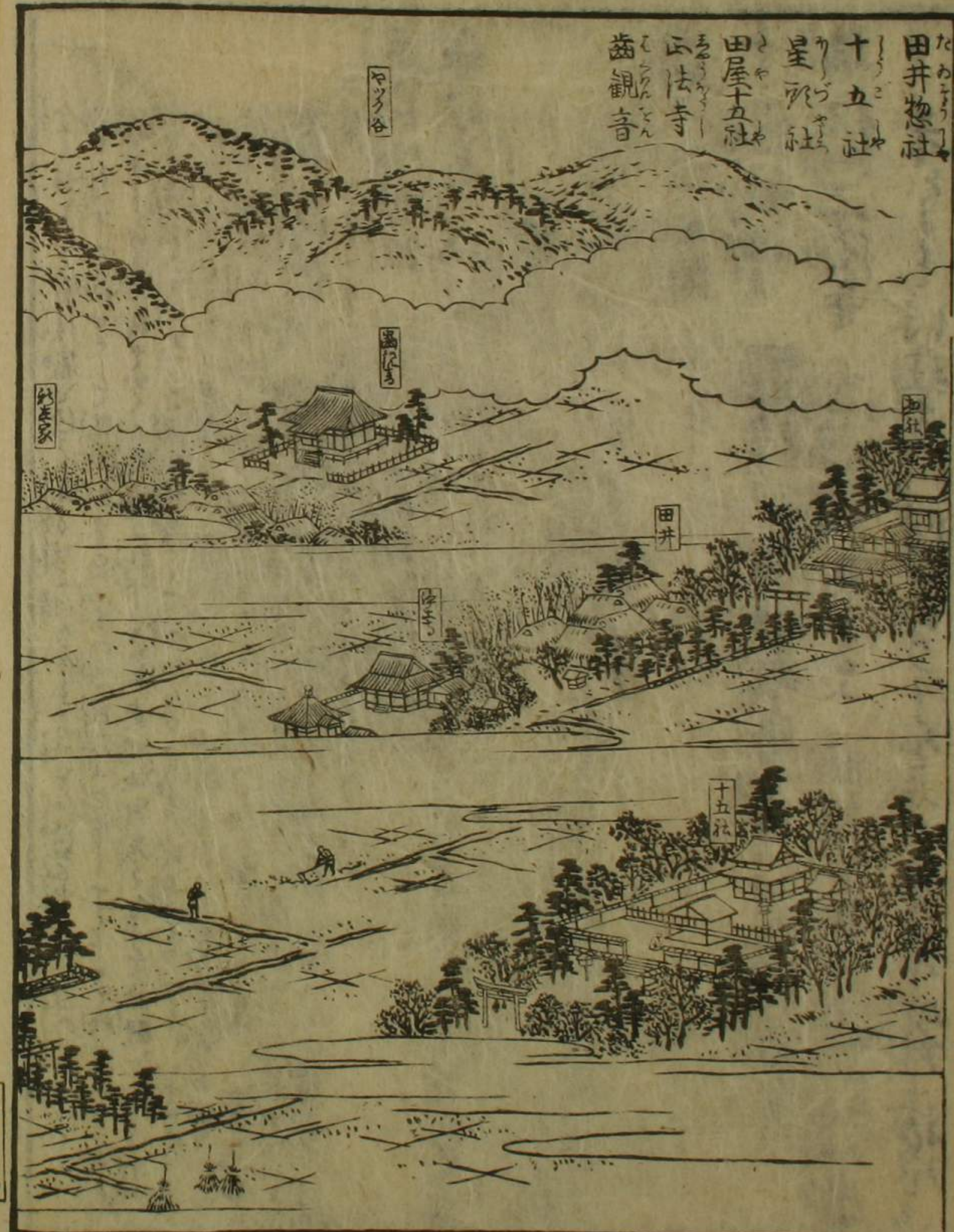
府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり

府中

府中 府中村のひがしにあり 毎家九月五日にあり





直川奉惠寺

登大福山

香門幾歲相尋稀
仙宇宗寥鎖夕陽
衆徒攢拳望不盡
滿林霜葉隨風飛

切井清洲

遠

極妙也

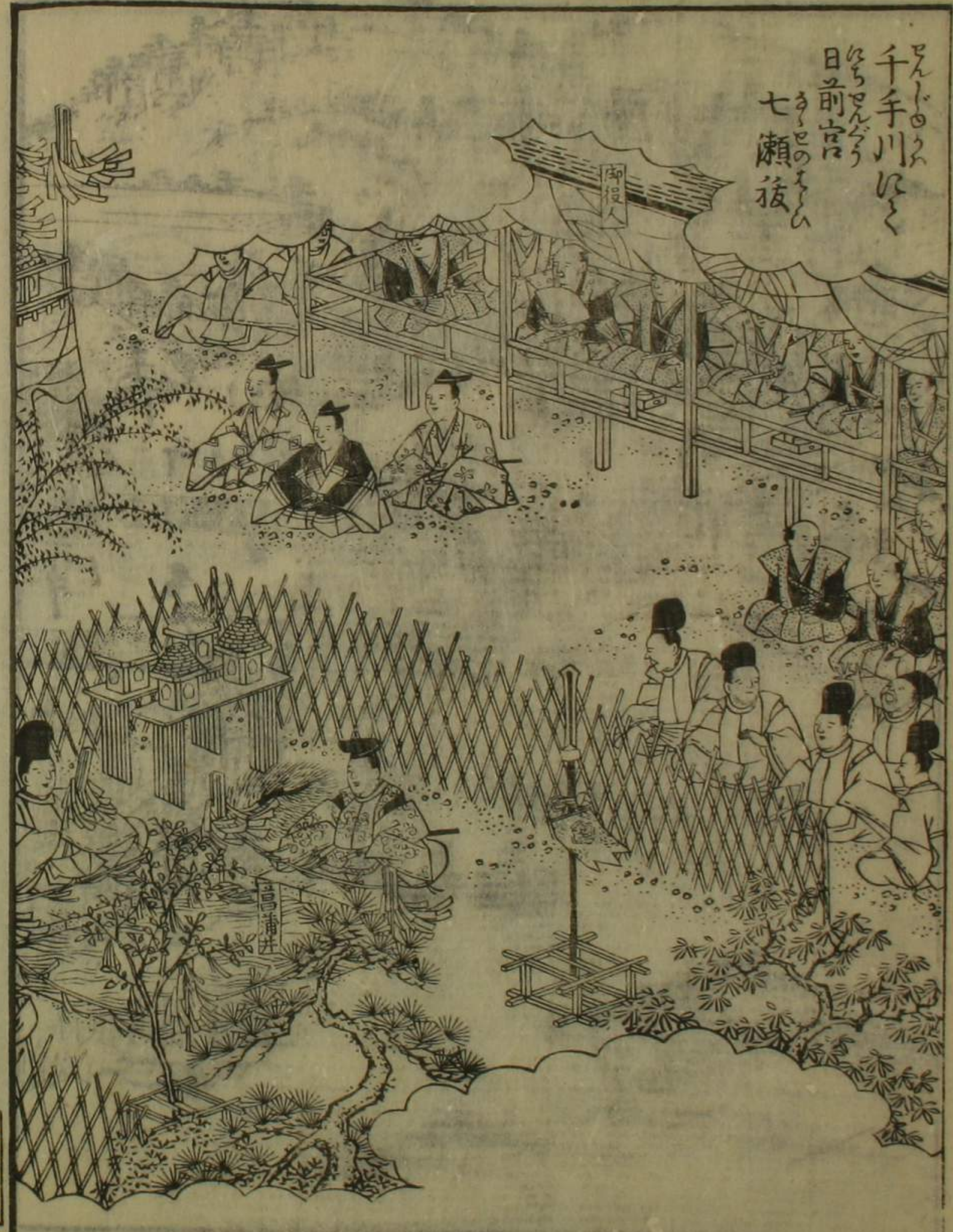
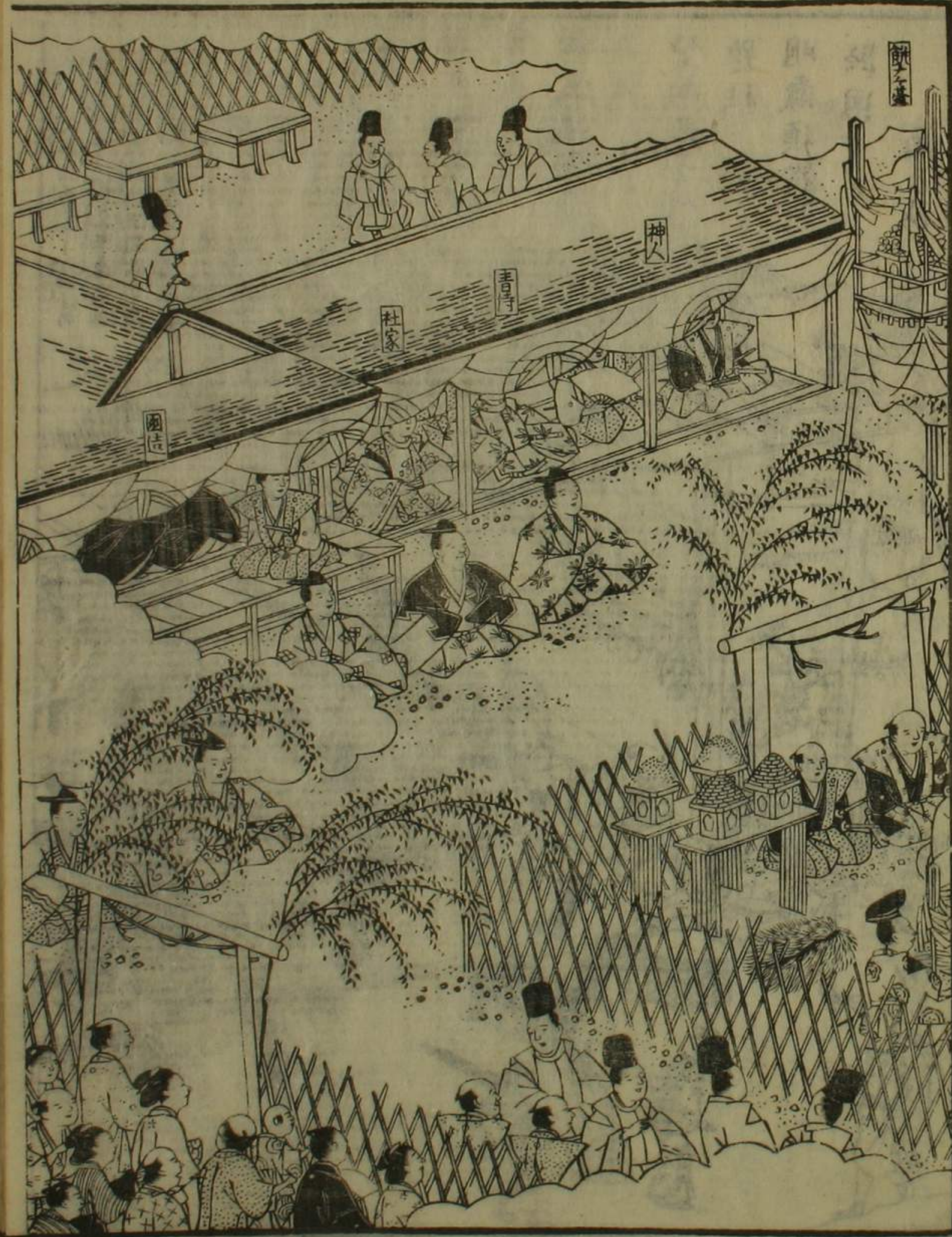
支考

山寺人這

妙々

仙化





之の... 儒官南... 後あり... 結して... くの... する... ねも... 辛卯春之東都直川
 酒店留別諸子



柳色鶯夢惹
 恨來。
 故人を勸送
 行杯。
 壁間、醉筆代
 題柱。
 明歲須從此
 路回。
 南 函

を... 中奥の因祖... 草創... 什寶弘法大原... 千手... 大福山... 叢法ヶ嶽... 是又... 葛城の山中...

岩の地より山岳をりしむに星巻送又後々峯亦山高く燦日
松風飄々として毎明の睡をさぬ一洞水深くとして煩悩の熱と
洗つら大降たよりこれにせよは是必神仏の悲栖仏睡の靈區
なるべしとそ思は具て天奏を授く一字と多創し親く亦梅檀
をりて匠王菩提のそ像と彫刻し是と寄して根本中堂少ん
帝叡感はうらたに於て南叡の大阿寺法再院の勅号とて
たまたま其後茶唐院の山仁阿闍梨大師の送跡とてさし
當山より入るいり佛圓漸に造立し法再寺に大師法跡
の妙典と納め二昧の妙約ありてあく多宝塔より四塔の寶鏡
伶倫の樂を奏し六楹の華幡採人の袖籠ぶとてさしして是
終るは慈覺大師道山よりわく如法經瓜條しむい釋迦多寶
普賢菩薩のそ像と自刻し別院より法安し律儀とて築く
六時の遷移ふと會の曉を待常約堂より法院尊像二昧の念

佛たのりたるふし後神の社に伽藍の破壊を守り山王の祠に
令法久住とてむむと立堂の大塔より大日堂より法安しと
秘法とて一切の輪藏より旧女の居趣と結むむ妙見
堂より天堂と初し左方の峯に之宗真言律儀の三院瓜
起立し右方の峯より自し書寫の法再と収め法塚山より名付
たり更し麻光都安安養の三院瓜建く眞の境よりたきあり
ちだ嵯峨涼和の兩帝はひく沖歸依の叡と息深く弘仁
おとて天長の寺号とあり本心の三塔と表しそらしたる
増立し各根本法再常約の三堂と設けく魏々たる法圖
薨とてふるをそし美足日し法安し都鄙の清人袂とて
ね編素渴作のありとぬい靈あるの會微然とて未未放せ
ざるかといともさるかして家なるあまらひにて後鳥羽院の
御宇然野は葉のおりし園輿とめらるしあいて堂塔再興の

射矢止社
櫻井
大同寺

初冬遊大
同寺呈前
法印應公

真際祥雲
蔭上方給

園慧日照
高堂林楓

霜染錦成
雁籬菊秋

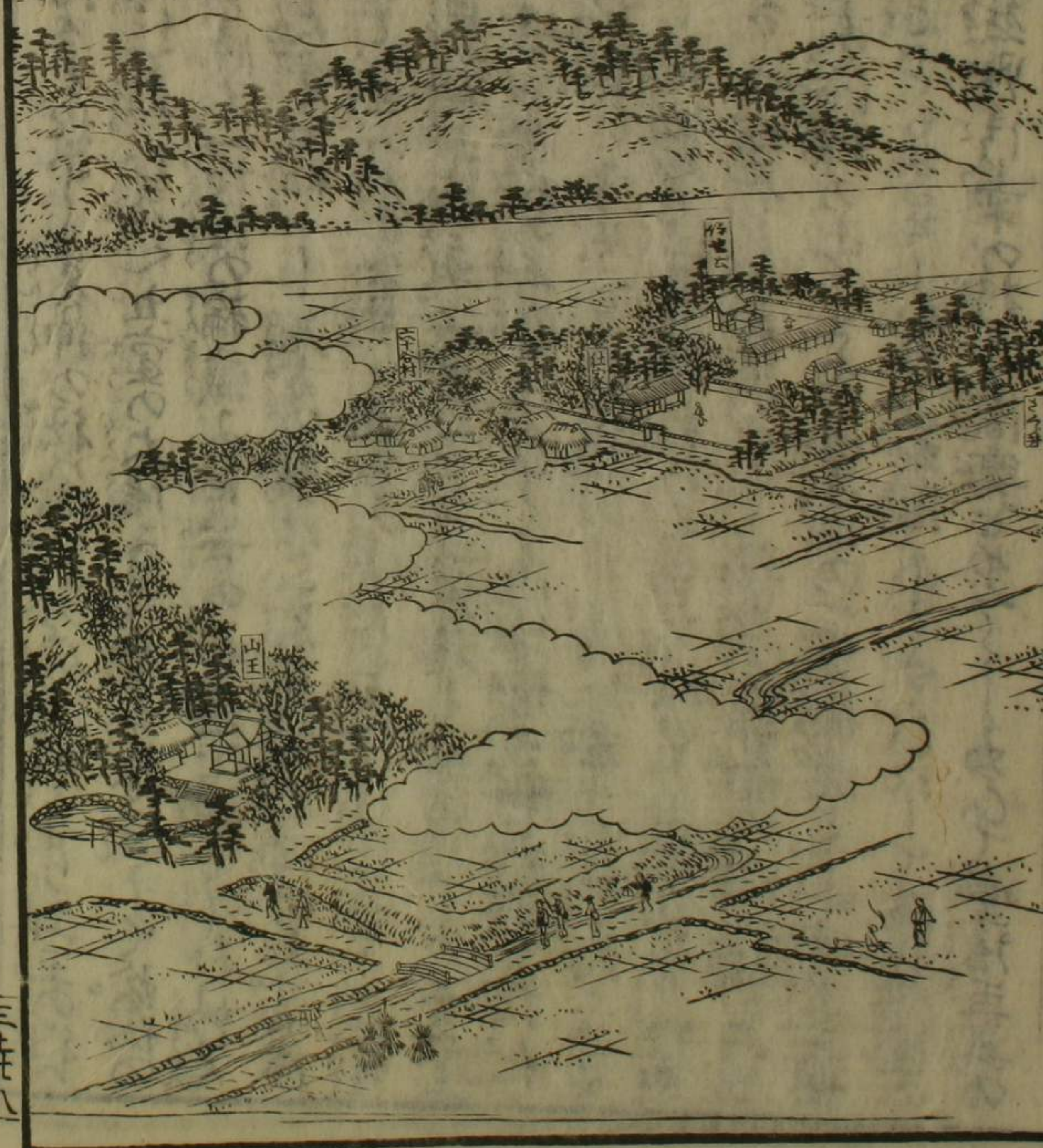
殘玉作卿
山勢走空

連斗極江
光曳練遠

崇岡道送
不獨探靈

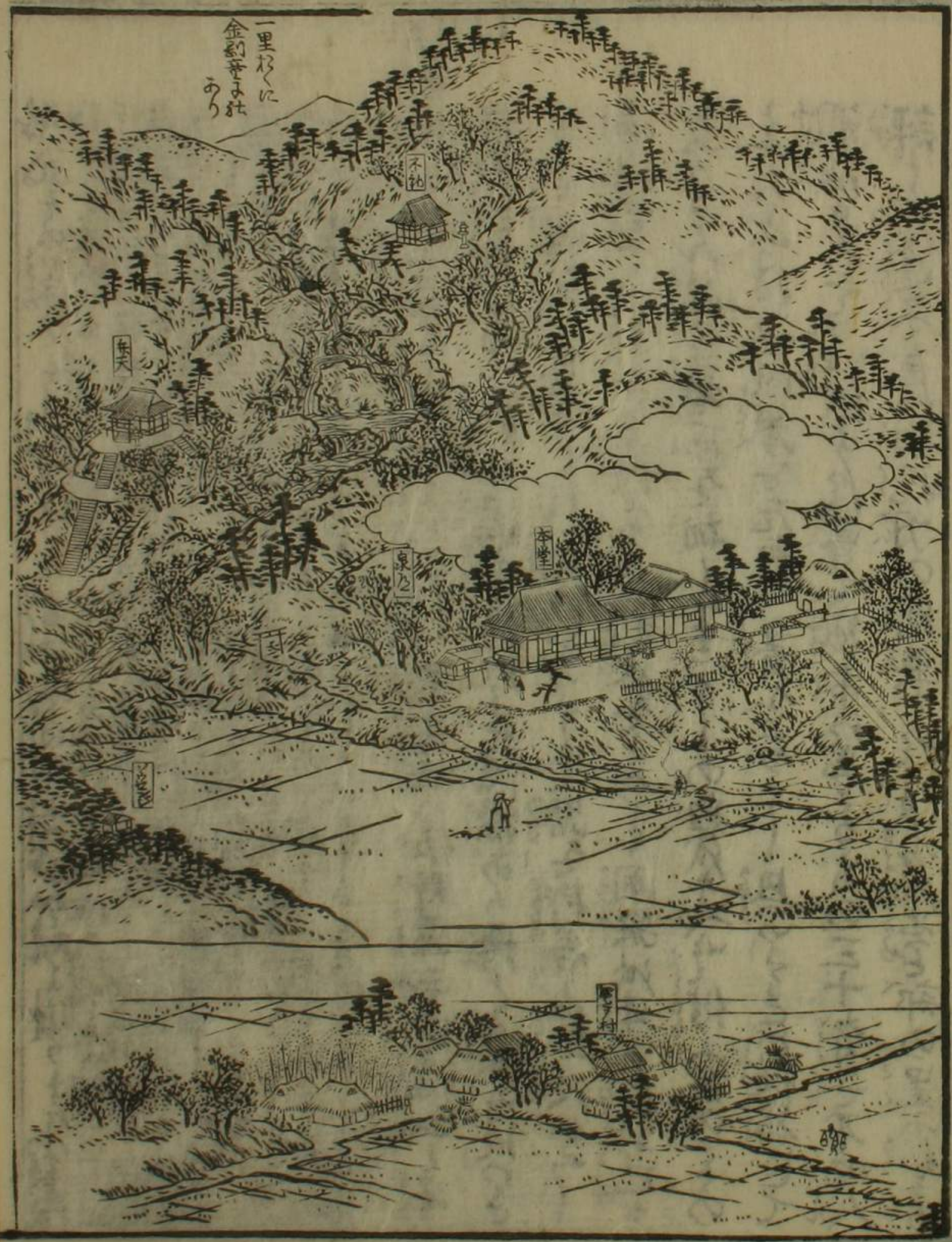
異靜坐偏
攸襲妙香

攸襲妙香

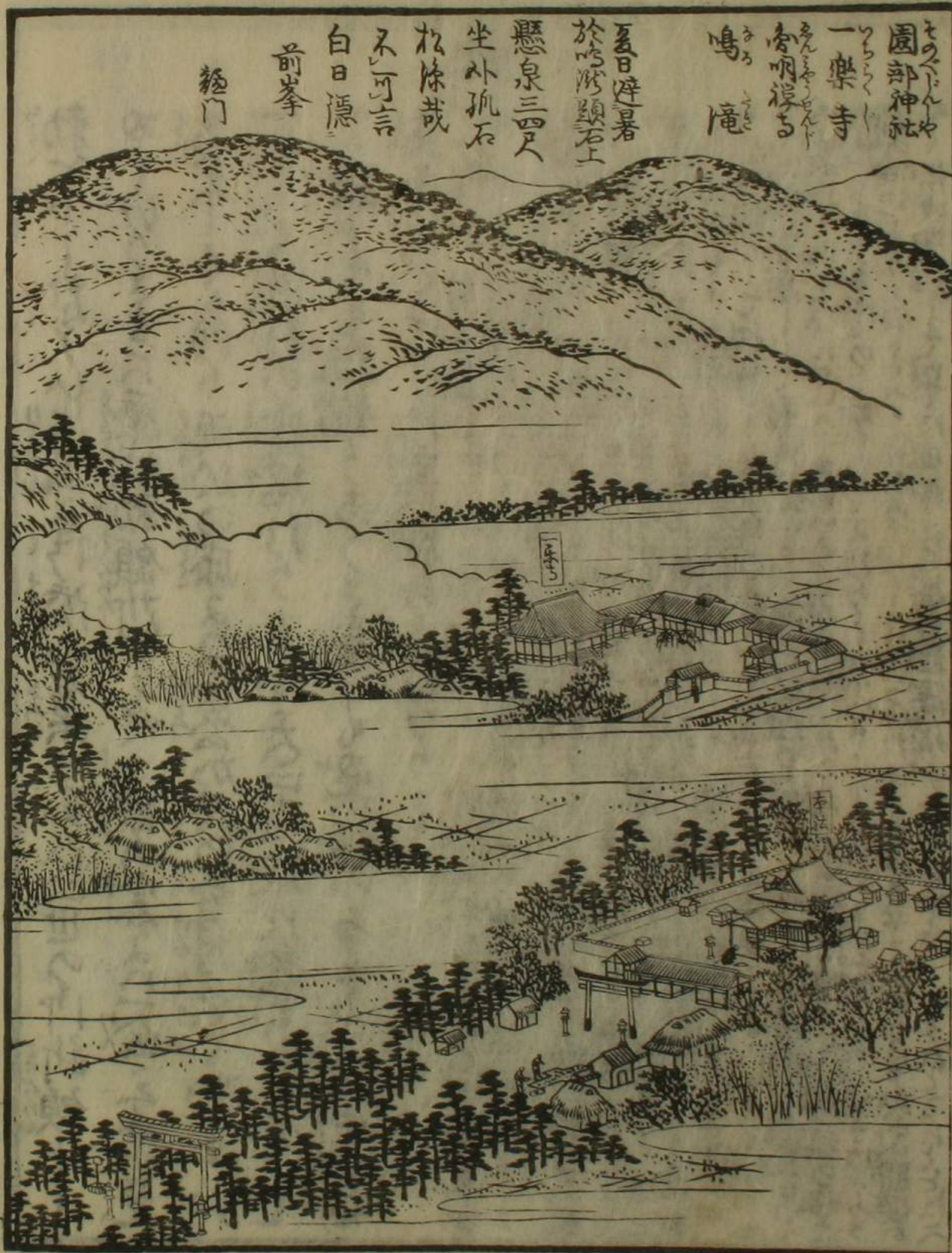


中洲





一里に
金剛寺あり



園部神社
一樂寺
鳴滝
夏日避暑
於此隱頭石上
懸泉三四尺
坐外孤石
不可言
白日隱
前峯

志ん... 延享長八月記... 小山老翁九十三歳...

而鷹已... 無如前... 俯至使... 宇策給... 間籍不... 優常給... 族而後... 壑有僧... 之感未... 中耳未... 竟援當... 與新不... 造物飽... 物德茹... 者客蔬... 相至飲... 終不泉... 始拒終... 若去歲...

世眞... 壹可... 聞尚... 處也... 士已... 之柳... 風詩... 不人... 亦之... 自可... 愧謂... 乎不... 亦自... 化乎... 乎是... 已嗚... 呼起... 于譽...

一樂寺... 就病... 就意... 相求... 醉掩... 氣峰... 日村... 中安... 佛土... 尊親... 諸堂...

鳴... 乃布... 今の... 堂舎... 其の... 其の... 不動... 尚山...

鳴... 乃布... 今の... 堂舎... 其の... 其の... 不動... 尚山...

園部兵衛重茂城跡

鳴鶴者龍詩序
謂為龍在府城之
其地一里蓋葛嶺之
區別云山中在暴國
俗
其地不重其狀去都
如此其迹而出塵如
是
同村一宗寺の地則其地ありと云

海部郡

平家物語に云く
犯家物語に云く
海部郡は古くは
海部郡は古くは
海部郡は古くは

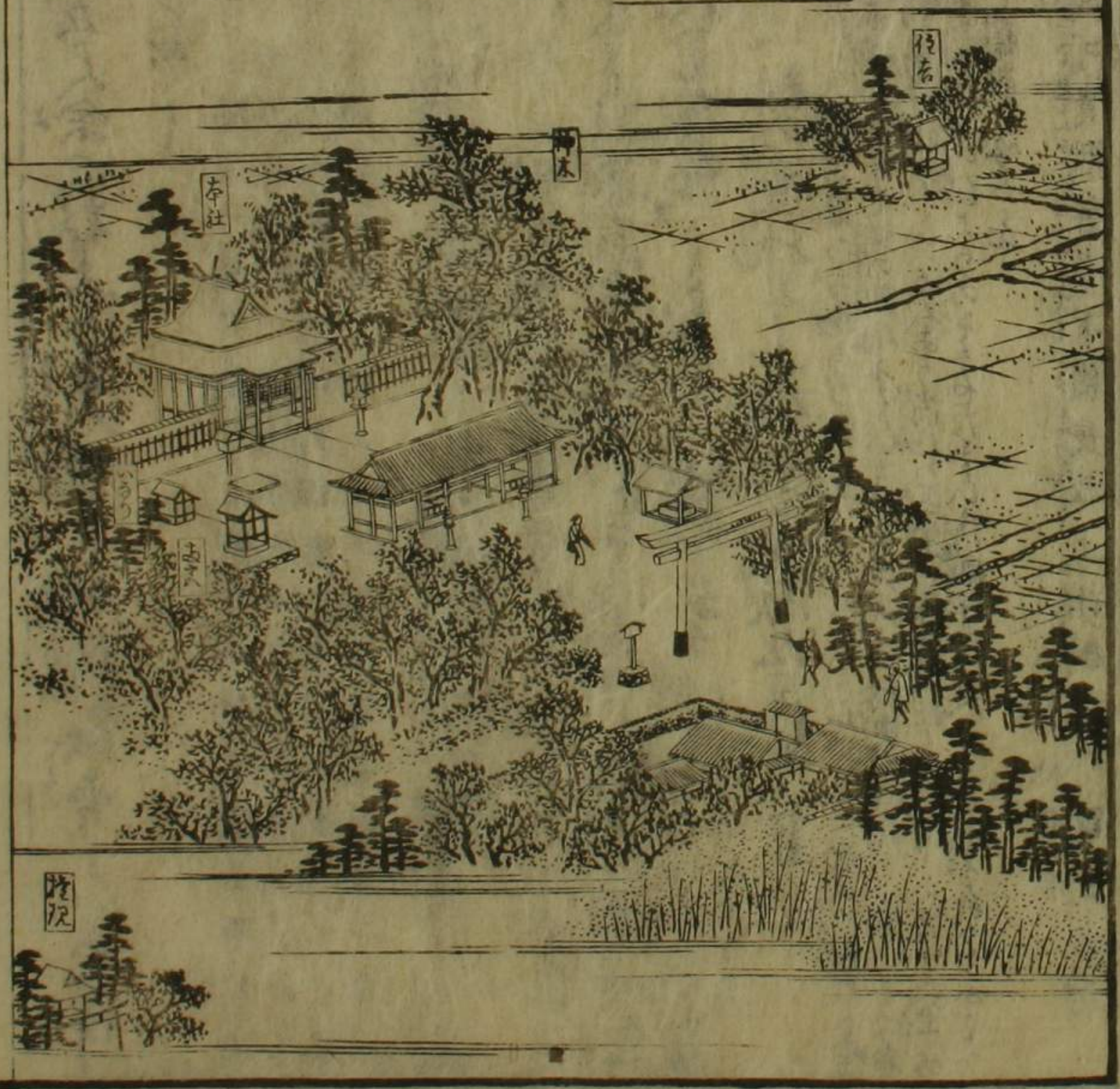
九頭大明神

一村の産神ありて
例祭毎年九月十四
日○境内は銀杏樹あり
希代の古樹あり幹の
大さく三圍にあたり
枝葉繁茂一えご
く小瘤のさくさくを
生じて長く下り垂
たり其最長

伊久姫社

新着清明雨
幽芳發滿枝
無花應誤柳
多緒亦非絲
露重憐紅濕
風徐見影垂
一春情似我
少石起來時
碩夫

伊久
由



是るもの六尺余にけり夫れ研棒銀杏と云ふ一奇
觀と云ふ

群芳譜曰。崑山縣志云。龍共倚。沐人殿中侍御史。扈從高宗南
渡。道經崑山。真義折銀杏一株。植地祝曰。若此枝得活。吾於是
居。其枝長茂。後成大樹。繁枝蟠屈。腫如癭。如乳者。凡七十餘
顆。相傳為其子孫嗣世之數。時人異之。稱為龔。遇仙樹。子孫遂
為崑山人云。

伊弉賣神社

市小浜村。犯る神詳なり。此社從四位上伊弉賣神社。奉玉神

一村の生去神にして例を毎歲九月廿三日にして生去平定字八
年異城袋等の所藤原貞國等として進討し。此の神の神告

此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。

九頭神社

此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。

此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。

此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。此の神の神告。

濯水向熱來依人正是朱明節檀場別麗辰

紀伊國名所圖會卷之三上終

三

三卷上